

# 2011年度 第4回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

- 開催日時：2011年11月8日（火） 午後6時30～8時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
- 出席委員：伊藤隆志、内田日出子、佐野美野里、田中紀子、山内淑子  
<以上5名、敬称略、あいうえお順>
- 欠席委員：青崎公博、五十嵐強、稲葉孝之、小野田恵、野口しほり<以上5名、敬称略>
- 事務局：丸木 敦（地域福祉課長）、長山清美（コーディネーター）篠原保之（係長）

事務局より欠席者の報告を行う。欠席者より議事に関する議決を委員長に委任する旨を報告する。資料の確認を行い、議事に入る。

## 1. 報 告 事 項

### (1).西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

事務局：月次報告。

市民まつりについて。11月12日(土)参加。社協内内部部署研修会について。アサーショントレーニングについての研修。相互相談に向け技術を学んだ。市内小学校総合的な学習の時間について。9校20プログラムに協力・実施。

コーディネート報告。特技の新規登録者が少ない。ボランティア保険加入者は、全体では申込みが少なくなっているが、被災地支援参加のための保険加入申し込みは、依然として多い。

今後の予定。

11月12日市民まつり。綿菓子・チラシ配布。

11月27日ふれあいまつり。ふれあいのまちづくり住民懇談会発足20周年事業とファミリー・サポート・センター事業10周年事業として行なわれる。ほっとネットステーションがシンポジウムを開催する。西東京ボランティア・市民活動センターからは、点字体験、車椅子体験でボランティアが活動する。あわせて、西東京ボランティア・市民活動センターからチラシの配布などの周知活動を行う。

12月4日軒下ふれあいバザー。西東京ボランティア・市民活動センター主催。イオンが行っている「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加団体を中心に出店を募っている。

12月10日西東京市社会福祉協議会10周年記念式典。3月に中止になったもの。

年末年始の予定について。12月29日～1月3日まで閉館。年末年始期間内にボランティア依頼が入るときは連絡体制などを細かに準備する予定。

1月10日に第5回運営委員会開催予定。

以上の報告について質疑を行う。

委員長：市民まつり実行委員会はどのくらいの規模で行なっているのか。参加団体の数はどのくらいか。

事務局：テント・ブースは 160 団体以上。併せて舞台発表の団体がいるので 250 を超えると思う。2 日目にはパレードが行われる。

質疑を終了。

## 2. 審 議 事 項

### (1). 2011 年度第 3 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

資料を確認の上、承認される。2011 年度第 3 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)を(確定稿)とする。

## 3. 協 議 事 項

- (1).西東京ボランティア・市民活動センター2011 年度今後の事業予定について
- (2).西東京ボランティア・市民活動センター2012 年度予算(案)について
- (3).西東京ボランティア・市民活動センター2012 年度事業(案)について
- (4).西東京ボランティア・市民活動センターの課題について

事務局：協議事項 4 件についての説明を行う。

「2011 年度今後の事業予定」は 3 月までの事業を記載している。

「2012 年度予算案」は、各委員に送付した資料から変更があった。

「2012 年事業について」は、新たに災害に関する事業を組み入れた。

「課題」については、これまでの議論をまとめてみた。

「2011 年度今後の事業予定」は年度末までに 4 点をお示しした。

「ボランティア懇談会」は、毎年行っているものだが、ボランティアには活動後に電話などでお話しを伺ってきた。これまで運営委員会の議論で、本音で話しができないようでは懇談会の意味がないとのご指摘があった。今回は、懇談会でお話しいただいた内容について、内容をまとめて様々な場所で発表していきたいと考えている。ボランティア活動の魅力や活動をすることでの充実感など、ボランティアはじめて講座でお示したり、ぼらんていあ倶楽部やホームページで発表することを予定している。ボランティア活動を進めるためのアドバイスもいただくが、ボランティア活動に参加しての楽しい思いや充実した思いについて、お話しをしていただきたいと考えている。

2 月 3 日を予定。

「ボランティア団体交流会」は、これまで活動分野を限定せずに、新たな活動、PR 活動、メンバーを増やすための工夫などのテーマを決めて交流会を行ってきた。今年のテー

マは団体の PR 活動。今年度は、傾聴ボランティア団体を対象に、交流会を予定している。過去 7 回の傾聴ボランティア講座ごとに傾聴ボランティアグループを組織してきた。団体間で連携を取って活動したいという声から計画した。前半に講演として、精神障がい者の対応についてお話しを伺う予定。精神障がい者に対する傾聴活動に関する留意点や活動のヒントをいただきたいので、講師としてデイサービスに明るい方や学校の先生や医療関係者を予定している。後半には、「ふれまちルーム」での活動（傾聴活動）を行っているボランティアグループがあるので、地元の方や障がいをお持ちの方を対象に相談が増えている実践例を報告していただき、今後の活動の協力体制について交流したい。2月24日を予定。

「はじめて講座ミニ」について。今年度は 2 日間開催したが、はじめて講座をより簡単に受講できるように 1 日開催を企画した。活動者のお話しを含めて内容を検討中。また、組織的に活動できるように参加者に働きかけたいと考えている。意図的に関わらないと組織化は難しいので意識的に進めていきたい。3月1日または2日を予定している。

「出張窓口」について。保谷駅前公民館を想定して、出張窓口の開催を検討している。これまでの実績等を伺い、効果などを考慮し、年度内に行なうか、次年度以降に検討するかを決めていきたい。

委員長：具体的に 1 月の懇談会、2 月の交流会、3 月の講座が挙げられた。ご意見を伺いたい。

委員：ボランティア懇談会について。これまではどのような形ですすめてきたのか。

事務局：1 つテーマを決めて登録ボランティアに参加してもらっていた。車椅子の使い方などを学びながら、日頃の活動について話し合った時もあった。去年はテーマを設けず活動での思いを出し合いその思いを共有してきた。日ごろ活動中に感じていることについて出し合った。

委員：本音が語り合えないという指摘もあったが、意見の出し方を考えていかないと表面のことしか出ないと思う。不満ばかり出てきてしまう。

委員長：ボランティアグループ内ではいろいろと話す機会もあるが、個人のボランティアはなかなかその機会につながらない。そういう人たちをつないであげる必要はあると思う。施設には様々なボランティアがいるが、朝の時間帯を和ませてくれるボランティアがいる。下膳のみのボランティアもいるが、その方の活動で食事の様子が分かることもあり、とても大切な存在になっている。利用者のケアに必要な存在になっている。そのことを伝えてあげる必要はある。懇談会では、そこからスタートしたらどうかと思う。

委員：施設に通っていた時、懇談会があった。そこでボランティア同士友達になって横のつながりができたことがあった。

委員：団体では自分の思いを話す機会もあるが、個人では難しい。評価を聴く機会は「自分は役立っていたのかなあ」と確認ができるので良い機会になると思う。

委員長：ボランティアと利用者の関係は点でしかないが、そこから線になり、やがて面にする必要がある。その機会として懇談会は役立つと思う。

委員：ボランティアに来ていただいている方々が、ボランティアを評価してあげることで、

ボランティアはそれを粹に感じることもあると思う。ボランティアのやりがいにつながる。そのような事例を出してあげると、自分は役立っていると感じることができると思う。評価をボランティアの前に出してあげることが大切。

委員：参加しているボランティアグループの中でもそのような話が出ている。ボランティアを依頼した人のお話を伺うこともあった。

委員：お互いにどのように思っているか、両方で話し合ってみる方が良いかもしれない。

委員長：ボランティア団体交流会の5団体は横のつながりはあるのか

事務局：個人的なつながりは知っているが、団体間の交流はあまりされていない。2団体に所属している人もいる。受講後、団体に所属されていない方もいる。傾聴という活動なのでストレスもたまりやすい。団体間では思いを出し合って解決策を探ったり悩みを解決して、次の活動に生かしている。団体によっては、アドバイザーに話を聞いてもらっているところもある。

委員：積極的に外部の方のお話を聴く機会を持っているところもある。自分たちのトラブル例を持ち寄って話す機会を持っている。

事務局：今回は傾聴ボランティアグループの1団体から提案があった。「ふれまちルーム」を使って、傾聴ボランティアグループが地域に閉じこもっている方に出てきてもらって、お茶を飲みながらお話を聴くという活動をしている。そのきっかけは、地域福祉コーディネーターが地域で孤立している人を引っ張り出したいという活動をしていた。この活動によって、その人が変わってきた。そのことを知らせていく必要から企画をしたいという思いがあった。

委員：定期的に活動しているのか

事務局：月に1度の活動を行なっている。成功例を伝えることで活動者のモチベーションを高めることになると思う。

委員長：地域の資源として地域の中で役立つかという例示・きっかけになる。個別のボランティア活動から大きく広がることもある。施設の場合は、その施設がボランティアの活動を評価してあげると思うが、その評価について、紹介する形でボランティア懇談会などで評価や成果を発表していくと良いのではないかなと思う。そのような評価をなかなか聞く機会がないボランティアもいるので、良い機会だと思う。また、愚痴の中でも「こうしてほしい」という声を聞いてあげることが大切だと思う。団体の方は1つの成功事例として、地域の中で役立っていることをふれまちルームの活動例を成果として上げればよい。

委員：ふれまちの活動拠点はどのくらいあるのか。

事務局：地域活動拠点という名称で4か所ある。そのうちの1つがふれまちルーム。ボランティア懇談会の中で、ボランティアを受け入れている側の声は、なかなか紹介できていない。

委員：はじめて講座について。保育について現在も運営委員会で話し合っている中で、今そのテーマで開催してしまっても良いのかどうか考えている。

事務局：保育などは活動している方が固定化しているので、活動の紹介として考えていたが、

保育ボランティアのあるべき姿などのテーマになると難しいと思う。一日の講座なので基本的なことと活動の楽しさなどをご紹介したい。

委員長：学校での活動の中では何を話すのか。

事務局：学校関係のボランティアでは、総合的な学習の時間の福祉体験授業のサポートボランティア活動者が固定化している。毎回同じ方をお願いしている状態。今年はアイマスクや盲導犬利用者の講演が多くなっている。また、障がい児の通級学級の登下校の付き添いをお願いしている。依頼はあるが活動者が少ない状態。今後も参加するボランティアを増やす取り組みをしていきたい。

委員長：講座のもう一つの目的としての「組織的に動ける」というのはどういうイメージか。

事務局：以前の講座の参加者でグループをつくっているところもある。グループに活動を依頼できるので心強い。震災時に組織的な活動のニーズはあったが、実際の活動に結び付かなかった。その理由から目的の一つにしたいと考えた。東京ボランティア・市民活動センターでもボランティアの組織化は難しいとの声はいただいている。

委員：活動をしたくて講座に参加していると思うが、思いが熱いうちに活動を紹介することが大切だし、仲間と話し合う機会があることは活動を進めていく時には助かると思う。西東京ボランティア・市民活動センターがまとめていかないといけないと思う。自然にはなかなかまとまらない。

委員：今回の講座参加者のみで組織するのか。それとも何回かの参加者を対象にするのか。

事務局：同じ講座で学んだ同士の結束は強いと思う。今回の参加者には、ボラフェスでのボランティア活動や実行委員会への参加など、一緒に活動をしてもらう予定。イベントでの成果を出し合って、次の機会は何をしようかという展開にしていくことを意図的に進めていきたい。

委員：ボランティアは専門的なことをやるわけではない。何でも良いから出来ることをしたいという考えでいると思う。講座には、以前は無料で参加できたが、このところは有料での参加になっている。

委員：講座の参加費の中身は何なのか。

事務局：講師料の負担や資料代になっている。

事務局：テーマを持った講座は別にして、組織が作られてはいない。そのため活動の維持は難しい。点での活動から発展させるためにも、グループでの活動の必要性はあると思う。確かに1回の講座の参加者でボランティアグループが作れるかという疑問はある。何回かの講座受講者をまとめることは難しいとは思いますが、組織化していくことは、西東京ボランティア・市民活動センターの仕事だと思う。参加者の年齢層にもよるが、携帯やネットなどのツールを利用して組織化していくことも可能だと思う。

委員：子どもを対象とした活動などを考えると、講座参加者のみで組織すると既存のボランティアが入ることができない。まずは現在活動中のボランティアで組織化を考えてみても良いのではないか。既に保育をやっている人も点で動いている。保育などで部会を設けていけばまとまりもできるし組織化しやすいのではないか。

委員：傾聴などは講座ごとで組織ができていった。はじめて講座の1・2・3回の参加者はまとまったが、これ以降は講座参加者ごとにまとまっていった。講座も数カ月の期間行うため、まとまりも強くなるのだと思う。人数も多かったが、組織が大きいとまとめ

るのも大変だと思う。

事務局：グループとして「何をしましょうか」から考えて、そこから西東京ボランティア・市民活動センターがサポートして、何ができるのか自分たちで考えていくようになる。

委員：専門的なことをやるわけではない。できることから考えていくと良い。

委員長：保育で個別に活動している人をどうつなげるかも必要だし、活動者をまとめていくのも必要。

事務局：過去の傾聴グループでは、グループとして自立して話していけるまでは、職員が会議に参加していった。今回の講座では、職員が積極的に入っていくことをしなくてはならないと考えている。

委員長：では、次年度に向けての話をしてほしい。

事務局：事業費に関しての資料。新たに、災害に関する事業を取り入れた。2012年度事業に災害に関する講座を計画した。災害時のボランティア活動の心がけや長期的な支援の観点でのボランティア活動を取り上げてみたい。

委員長：予算をこんなに減らしてしまって大丈夫か心配だが、どうなのか。

事務局：これまでは、個々の事業ごとに予算を組んでいた。郵送費もボランティア数の増加を目途に予算計上していたが、いくつかの郵送物をまとめて送付したり、今年度実績に併せて数値を計上した。事前の意見として減額分を他事業にまわして増額したらという声もいただいたが、実勢に合わせて予算計上した。今後、市との調整もある。変更については、各委員にお知らせしたい。

委員長：4つめの課題について、お願いしたい。

事務局：課題について。前回の議論も載せている。「活動の報告」について。なかなか言えないことが依頼者もボランティアもある。活動者側の意見、依頼者側の意見の吸い出しを考えていきたい。また、依頼を受けた時に、子どもの月齢や人数、保育の内容などをもっと詳細に伺うことと、ボランティアに伝えることが出来ていなかったと考えた。ボランティアに対する情報の提供が不十分、情報取得が不十分ということ。これらを検討して進めていきたいと考えている。そこでのトラブルが減る分、活動者が見つかりにくくなると思うが、そこも含めて検討したい。西東京ボランティア・市民活動センターが求める、依頼者やボランティアの情報をなるべく負担が少ないように、どのように集めるかも検討課題として挙げている。報告書については、新年度には導入したいと思う。保育では活動者の人数基準例を挙げているが、有償サービスを行なっている例を挙げている。その場合は、ボランティアは有資格者を対象にしている例もあるので、様々な要素を考慮したい。プロではないボランティアであるため、フアジーな部分があっても良いのではという声もある。利用しやすい体制づくりは必要だが、活動者を守るように安全性を考えての基準は必要と考えている。地域によっては、活動前に講習を受ける基準になっているところがある。講習受講者にどこまでの責任を負わせることになるのかも考えなければならない。

委員：ファミリー・サポート・センターは有償サービスだが、事前講習は行なっていると思うが、どうなのか。

事務局：有資格者(国家資格)をボランティアに必要とするかについても考え方が違ってくる。

- 委員：保育はボランティア活動にそぐわないと思う。保育という名称は使わない方が良い。判断を求められる範囲の活動はボランティアではないと考える。資格を持ったボランティアをそろえるのではなく、ボランティア活動が楽しく出来るためにはどうするかを考えないといけない。
- 委員：配慮が必要なケースには、責任を持たせることは辞めた方が良い。
- 委員：有償ボランティア、有償サービス活動者とボランティアと一緒に活動していることもあった。
- 委員：それらが一緒の活動自体がおかしいと思う。
- 委員：紹介された場所で一緒になってしまった。
- 委員：おむつ交換の有無について。ボランティアの中には、おむつを替えたいという方もいる。
- 委員：私がラジオ番組でリスナーと話をしても保育ボランティアについての問い合わせがある。そこでも「保育はボランティアではない」と話している。各母親の思いが違っていると思う。
- 委員：ボランティア活動場所に依頼者が一人入ることは良いと思った。
- 事務局：実際に現場を見てもらうこと、特に保育の現場を見てもらうことは大切だと思う。一方、様々な活動については、やりたいかやりたくないかも考えなくてはならないが、そこが基準になるのかどうかは疑問。西東京ボランティア・市民活動センターとして基準を設けるかどうか。依頼者とボランティアとの合意で活動自体は成り立つと思うが、あくまでも西東京ボランティア・市民活動センターとしての基準は必要と感じている。人数基準の提示の仕方によっては難しい問題だと思う。
- 委員：そこまで心配せず、説明しても良いと思う。
- 事務局：西東京ボランティア・市民活動センターのポジションとして難しいと思う。悩んでいる。派遣会社では問題はないと思うが、西東京ボランティア・市民活動センターでは紹介できる人数が少ない場合などは、依頼者は事業ができなくなる。
- 委員：今までに「これでは困る」と依頼者から言われたことはあるのか。
- 事務局：こちらからは足りない分はスタッフが入るように伝えてはいたが、報告書もなかったもので、ボランティアが少ない中で活動をやってしまったこともあったと思う。
- 委員：西東京ボランティア・市民活動センターでは、紹介人数が足りなかった場合、他の相談先でボランティアを調達するようにすればよいのではないか。
- 事務局：西東京ボランティア・市民活動センターはサービスを提供するところではないので、西東京ボランティア・市民活動センターの性格を説明してご理解していただいたうえでコーディネートを行うべきだと思う。そうはいつても、ボランティアも声として出すという必要はあると思う。これ以上はできませんという意味表示を相手にする必要がある。
- 委員：個人的には人数に満たない場合は、活動に行くのは嫌だと思う。
- 事務局：このところは、依頼があったら、内容を細かく聞くようにしている。ボランティアが見つからない時には、依頼者側で見つけるように話している。また、保育の受付者を制限するなどのお話しはしている。
- 委員：活動が初めての方は、現場で戸惑っている。

事務局：市立の保育園では0歳なら6名に対して4名の職員が付く。プロでその基準なので、ボランティアでは限界がある。

委員：中に一人有資格者がいると良いのではないか。

委員：困ったことがあればお母さんと呼ばば良い。ボランティアを頼むなら呼ばなくてはいいけないと思う。途中で呼び出されなくなかったら、有償の保育を頼めば良い。西東京ボランティア・市民活動センターはこのようなルールですと確認をすれば良い。また、報告をしてもらえば良い。

委員：そのような確認はしているのか。

事務局：報告は行っていない。

委員：話を聞いて、すごく怖いと感じた。綱渡りのようなコーディネートだと思う。

事務局：依頼の時に「応相談」として、現場の状況や人数の基準を示しているボランティアセンターがある。マナーについて、突然保育する子どもの数が増えてもボランティアセンターに伝えることもなく、当日に相談すればよいと考えているところもある。こちらで指摘しなくては報告もなく進められることもあると思う。基準を明確に出した方が良いのなら、出すべきだと思う。負担が増えるのはボランティアのみ。活動者を守ってあげなくてはならない。

委員：基準については、最低限のものがあれば助かると思う。

委員：怖くてボランティア活動ができなくなることもあるのではないか。

委員：やはり保育ではなく、遊び相手ということしかできない。

事務局：ボランティアも自分の条件を出してもらおうことも多くなっている。一つの自己防衛だと思う。

委員：やはり保育はボランティア活動ではないと思う。

委員：保育なら有資格者がいないと活動がきつくなる。

委員：保育は専門的な活動だと思う。

委員：ボランティアの中で有資格者は見つかるのか。いれば理想的だが。

事務局：いるにはいるが、有資格者は保育以外での活動をしたいという方も多い。

委員：保育にお金を払いたくない方はいると思う。ボランティアセンターへの依頼には、その理由の方がいるのではないか。

事務局：有償のサービスは、パソコンで探せばいくらでも業者はいると思う。ボランティアにお願いしたい内容が個々の依頼ごとに違う状態。西東京ボランティア・市民活動センター事業に関する考え方も様々だと思う。西東京ボランティア・市民活動センターから基準を示すことは大切だと思う。その基準を示したうえで、理解していただき、利用していただくしかない。

事務局：公民館事業の保育活動に関する説明書では、保育は2時間以内と唱っている。今までは結構厳しい条件でボランティアに依頼していたのかなあと反省している。

委員：公民館では、利用者はお金を払っていないが、公民館で払っているので有償活動。無償のボランティア活動は基準を設けないといけない。

事務局：無償のボランティア活動を行っていくためには、安全面を考えていきたい。

委員：名称も保育ではなく遊び相手として、表記しても良いと思う。

委員：お母さん方のお手伝いはしたいと思うが、ある程度の基準やマナーは守ってほしい。



事務局：安全面の補償とお母さん呼びに行く時の内容を示していきたい。このように困っている間にも保育の依頼が来ている状態だが、条件を伝えていくと、クレームも予想されるが、進めていかなくてはいけない。

委員長：大きな課題であったと思う。ボランティアセンターの存在そのものが問われる問題ともいえる。何かあった時にはボランティアそのものが大変な状態になる。最終的には、信頼関係になってしまうと思う。その関係づくりが大切になる。

事務局：ボランティアセンター自体が現場に足を向けて状況を把握していくことをしなくてはならない。しっかり現場を見ておくことは必要。

委員長：昨年までとは違い、議論が深まっていると思う。本日も活発なご議論ありがとうございました。

## 4. そ の 他

### (1).次回運営委員会開催日程について

次回の運営委員会の確認を行う。

日時：2012年1月10日（火）18:30～20:30

会場：田無総合福祉センター 第3会議室

以上をもって、2011年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し散会する。